

令和3（2021）年さけます来遊状況（第7報:2/28現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の2月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4年魚（2017年級）は前年および平年*1を下回り、1994年以降では2番目に少ない
- 5年魚（2016年級）は、前年を大きく上回るが、平年を大きく下回り、1994年以降では3番目に少ない
- 3年魚（2018年級）は、前年をやや上回り、平年とほぼ同等
- 北海道の平均体重は3.19kg、本州の同体重は3.00kgで前年とほぼ同等

*1：平年とは、平成6（1994）～令和2（2020）年の平均値

・サケの年齢組成

（全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、2月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2017年級）が全体の58%を占めて最も多く、5年魚（2016年級）及び3年魚（2018年級）がそれぞれ23%、18%となりました。4年魚は前年同期の73%、平年同期の37%となり、1994年以降では2番目に少なくなりました。5年魚は前年同期の266%となりましたが、平年同期の24%となり、1994年以降では3番目に少なくなりました。また、3年魚は前年同期の119%、平年同期の101%となりました（図1）。

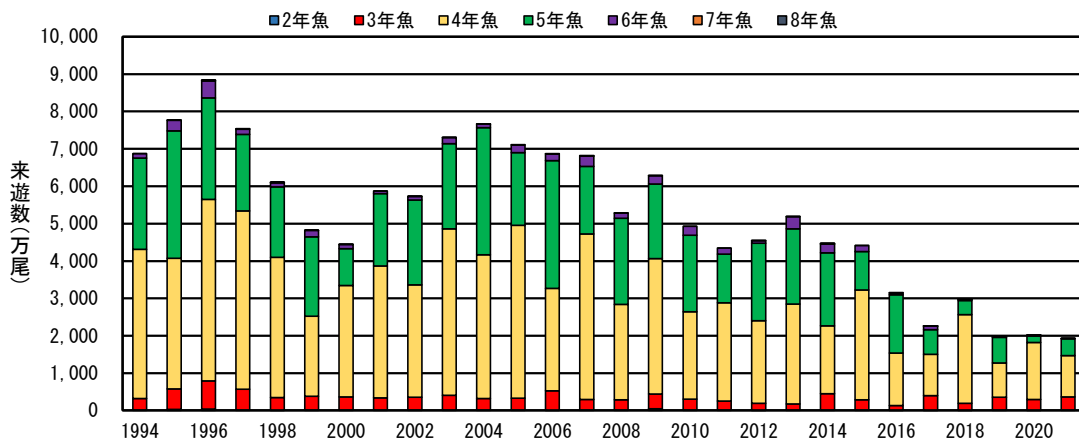


図1. 2月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2017年級）が全体の58%を占めて最も多く、次に3年魚（2018年級）が21%を占め、5年魚（2016年級）が20%と続きました。4年魚は前年同期の64%、平年同期の18%となり、1994年以降では2番目に少なくなりました。5年魚は前年同期の106%、平年同期の10%となり、1994年以降では2番目に少なくなりました。また、3年魚は前年同期の110%、平年同期の73%となりました（図2）。

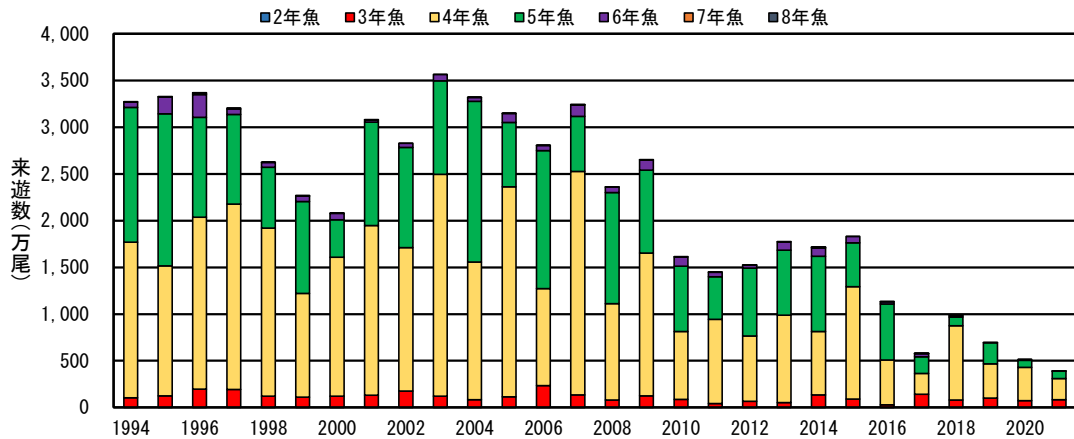


図2. 2月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

北海道太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の23%となりました。また、5年魚である2016年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の25%となりました（図3）。

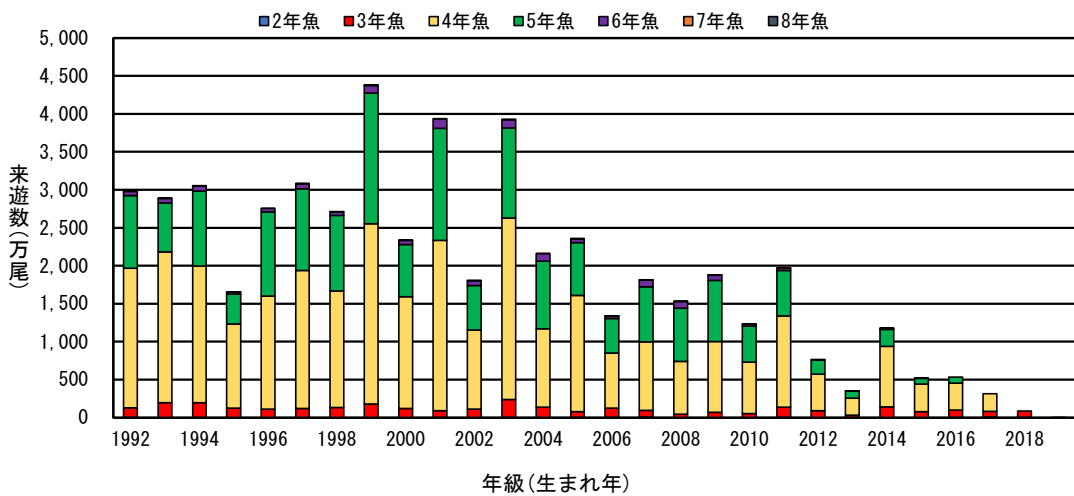


図3. 2月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側(オホーツク海区および日本海区)の年齢別の来遊数は、4年魚(2017年級)が全体の58%と最も多く、次に5年魚(2016年級)が24%を占め、3年魚(2018年級)が17%と続きました。4年魚は前年同期の82%、平年同期の80%となりました。5年魚は前年同期の414%となりましたが、平年同期の51%となり、1994年以降では4番目に少なくなりました。また、3年魚は前年同期の140%、平年同期の231%となりました(図4)。

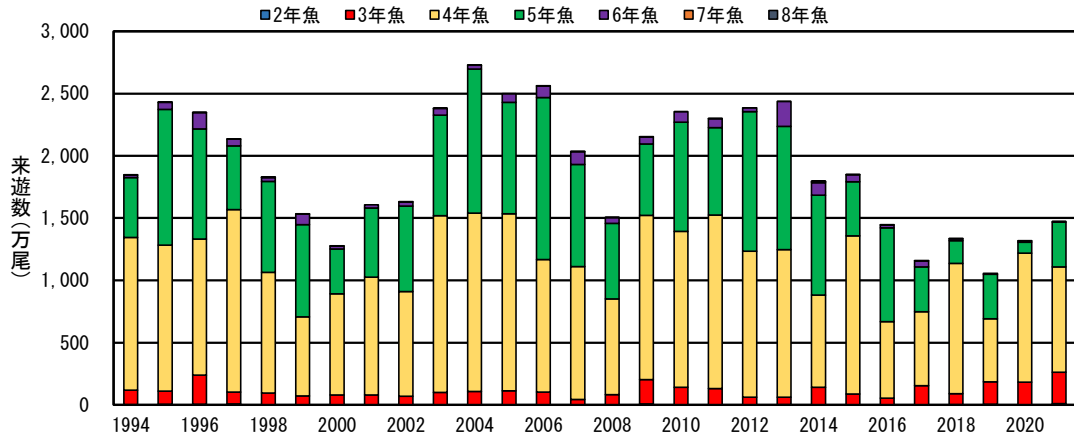


図4. 2月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道日本海).

北海道日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の90%となりました。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の86%となりました(図5)。

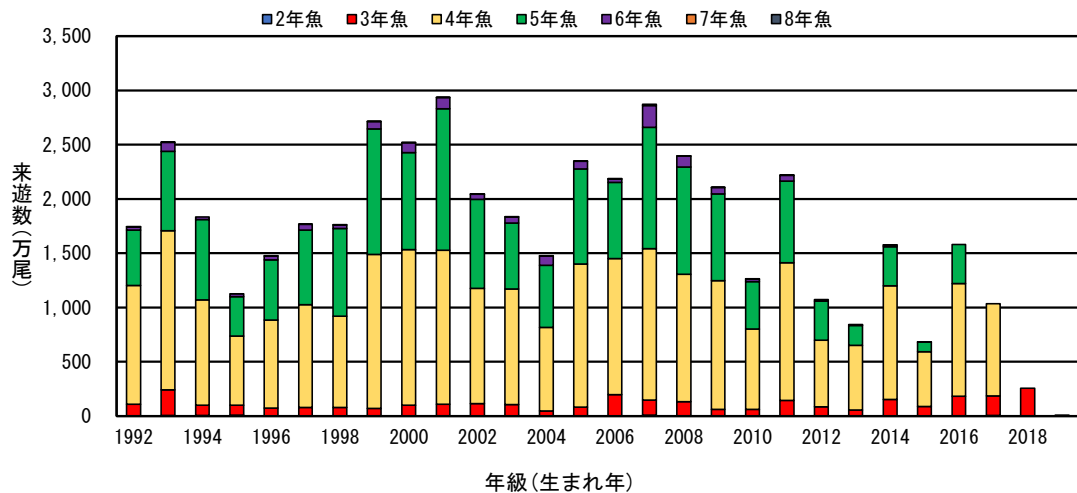


図5. 2月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道日本海).

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2017年級)が全体の52%を占めて最も多く、次に5年魚(2016年級)が26%を占め、3年魚(2018年級)が20%と続きました。4年魚は前年同期の19%、平年同期の3%となっており、1994年以降では最も少なくなりました。5年魚は前年同期の135%、平年同期の2%となっており、1994年以降では2番目に少なくなりました。また、3年魚は前年同期の40%、平年同期の6%となりました(図6)。

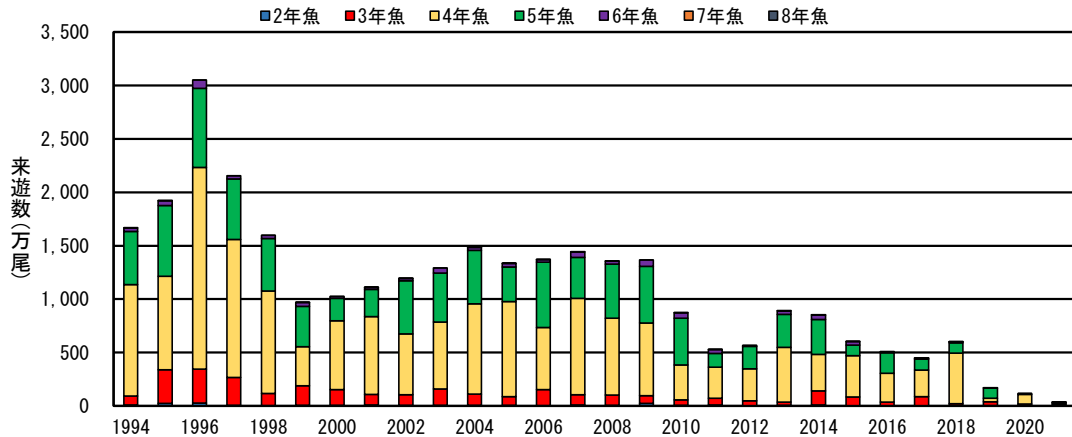


図6. 2月末時点のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

本州太平洋側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の5%となりました。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の13%となりました(図7)。

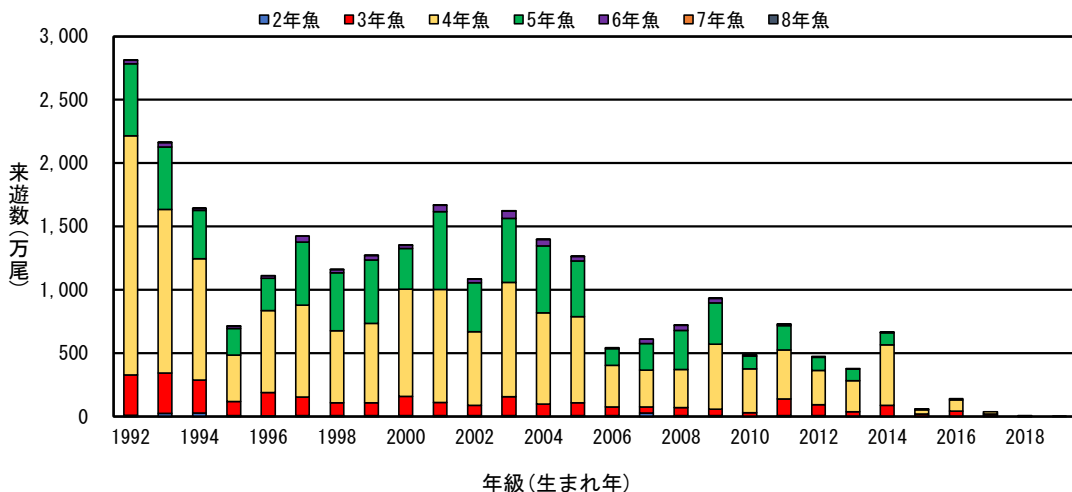


図7. 2月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州太平洋).

(本州日本海)

本州日本海側の年齢別の来遊数は、4年魚(2017年級)が全体の50%と最も多く、次に3年魚(2018年級)が34%を占め、5年魚(2016年級)が13%と続きました。4年魚は前年同期の37%、平年同期の32%となり、1994年以降では2番目に少なくなりました。5年魚は前年同期の200%となりましたが、平年同期の25%となり、1994年以降では2番目に少なくなりました。また、3年魚は前年同期の42%、平年同期の68%となりました。(図8)。

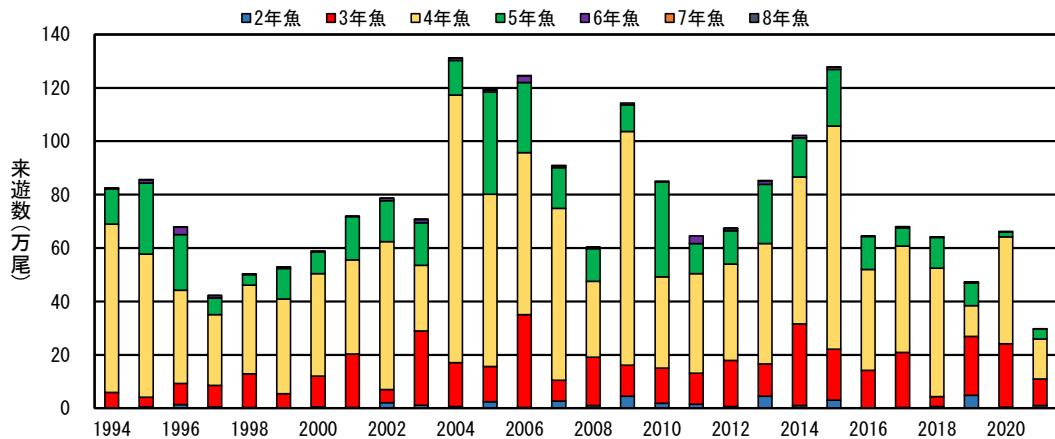


図8. 2月末時点のサケ年齢別来遊数(本州日本海).

本州日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の70%となりました。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の87%となりました(図9)。

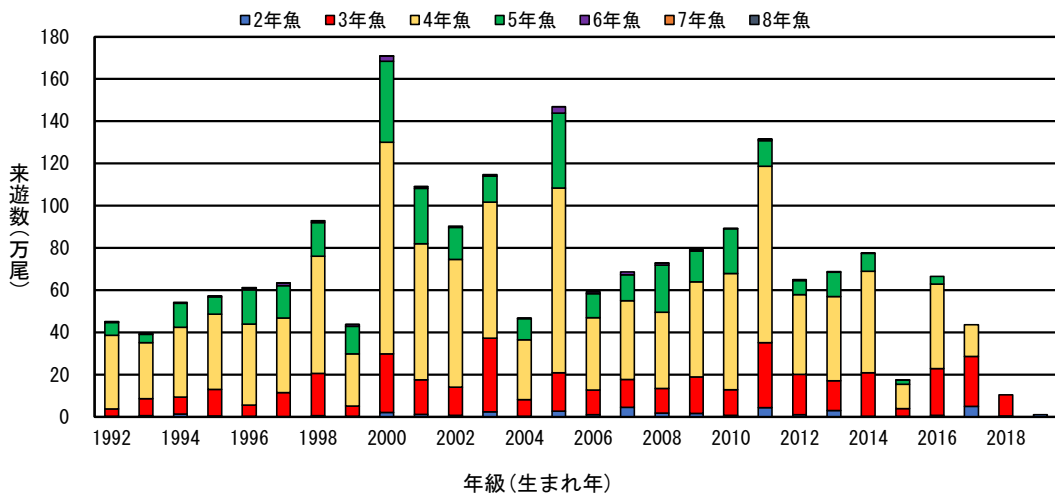


図9. 2月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州日本海).

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道におけるサケ1尾当たりの平均体重(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.19kgであり、前年同期の平均体重3.15kgとほぼ同等となりました(図10)。

また、北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は66.3cmであり、前年同期の平均尾叉長66.3cmと同等となりました(図11)。

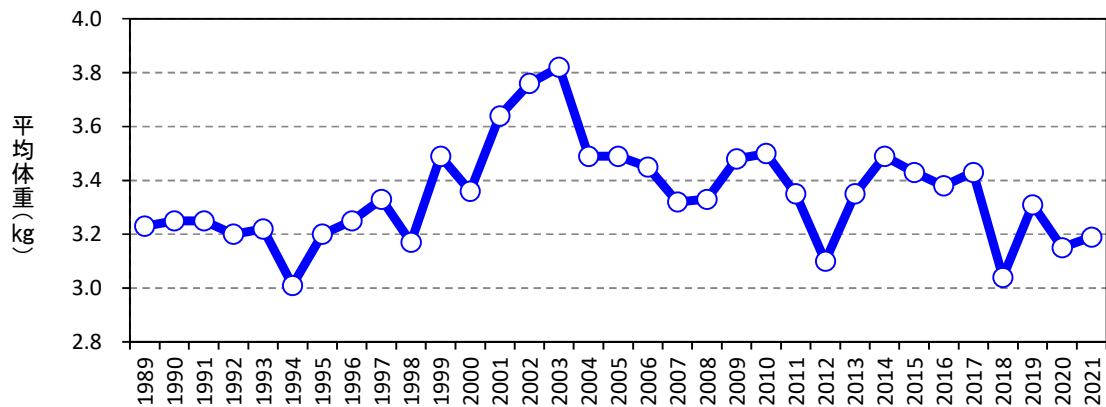


図10. サケ平均体重(北海道).

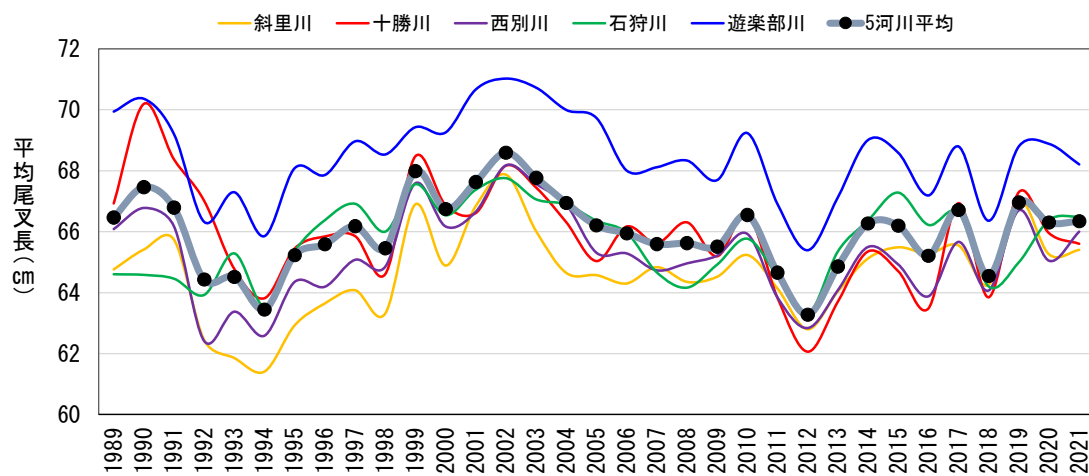


図11. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における2月末現在のサケ1尾当たりの平均体重(一部の県を除く、漁獲数と漁獲重量から算出)は3.00kgであり、前年同期の平均体重2.96kgとほぼ同等となりました(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に2月末までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ70.4cm、71.2cmであり、前年同期の平均尾叉長(津軽石川70.2cm、月光川70.0cm)と比べて、津軽石川ではほぼ同等、月光川では若干大きくなりました(図13)。

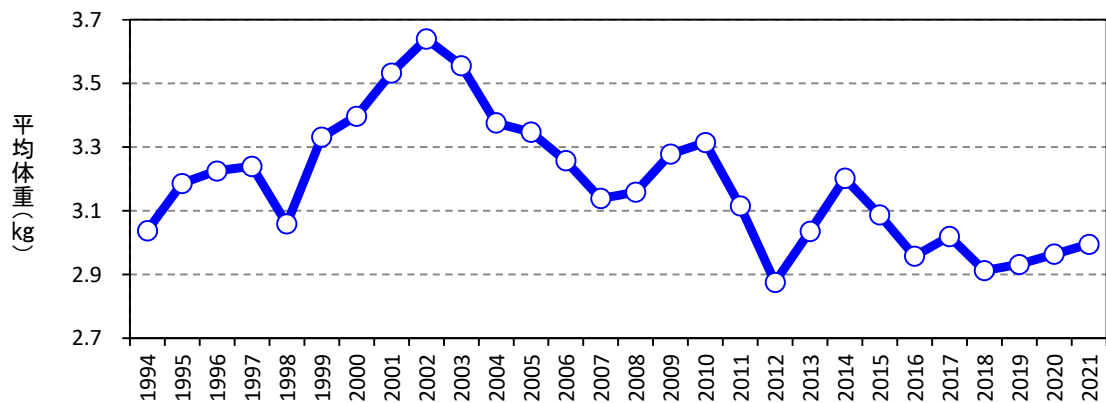


図12. 2月末時点のサケ平均体重(本州).

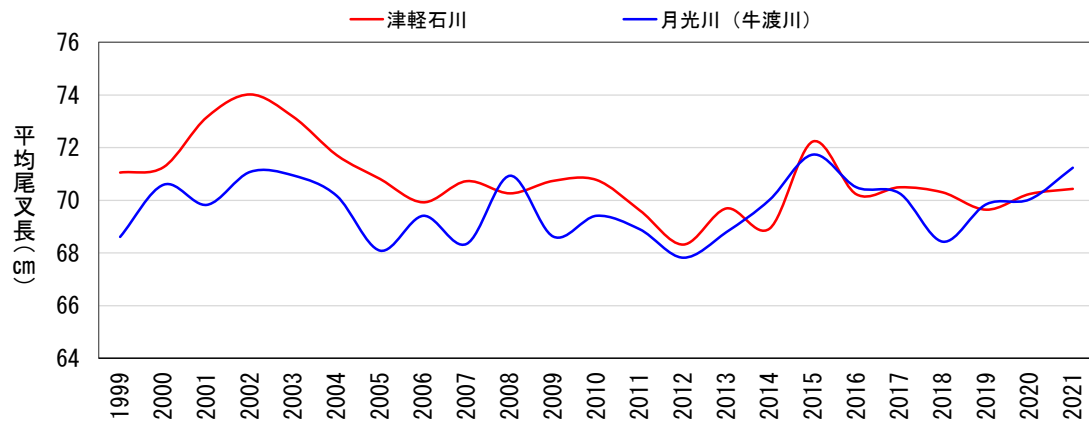


図13. 2月末時点の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.